

2016年（平成28年） 7月1日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

6/16~6/22のNYMEX・WTIは、英国のEU離脱観測とその残留観測が入り混じる形で、6/16の46ドル前半から6/20の49ドル半ばまで、連日変動の大きい一週間となった。

6月23日は、この日英国で実施されたEU離脱に関する国民投票で、残留派優勢との各種世論調査を受けて、投資家心理が改善、WTIの受け渡し点であるクッシングの原油在庫が減少したとの報告もあり、6月9日振りの高値となった。8月限の終値は、前日比0.98ドル高の50.11ドルとなった。

週末24日は、英国国民投票のEU離脱決定により、世界経済とエネルギー需要の減速懸念が拡大し、大幅反落した。投票直前に残留派優勢との観測が強かっただけに、市場関係者のショックは大きく、対ユーロでのドル高も原油の割高感を高め、一時は46.70ドルまで下げた。8月限は前日比2.47ドル安の47.64ドルで終了した。

週明け27日は、週末の英国のEU離脱決定を受け、世界的に金融市場が大荒れとなる中、リスク商品である原油は敬遠され、ドル高・ユーロ安の進行による原油の割高感もあり、続落した。8月限の終値は、前週末比1.31ドル安の46.33ドルとなった。

28日は、英国のEU離脱を背景とする売りが一服し、その反動買い、ノルウェーの油田労働者のスト懸念や米国原油在庫の減少見通し等が材料となり、3営業日振りに反発した。8月限の終値は、前日比1.52ドル高の47.85ドルだった。

29日は、EIA(米エネルギー情報局)の米国石油週報で原油在庫の減少が市場予想を上回ったことから大幅続伸した。8月限の終値は前日比2.03ドル高の49.88ドルとなった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(8月

渡し)は、前週44ドル半ば~47ドル前半の範囲で推移し、後半やや値を戻した。23日は46.40ドル、24日は45.00ドル、27日は45.20ドル、28日は44.40ドル、29日は45.60ドルと、WTIとは対照的に狭い範囲で推移した。

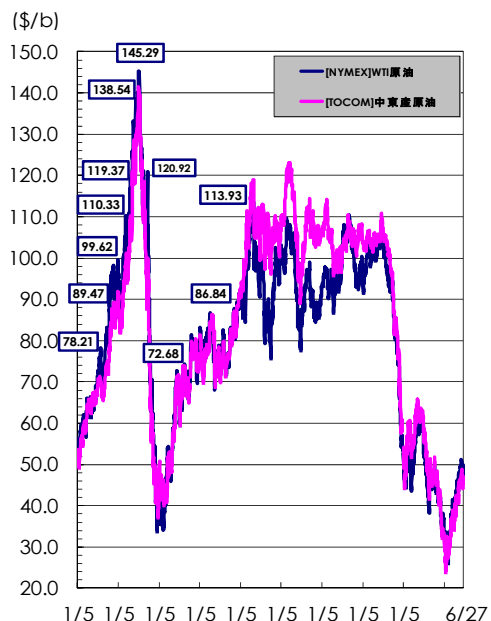
為替は、前週は103~106円の狭い範囲で円高気味に推移した。23日は104.79円、24日は100.76円、27日は102.18円、28日は101.63円、29日は102.45円と、英国のEU離脱決定に伴う世界経済の先行き懸念で、安全資産とされる円は、高値水準で推移した。

財務省が29日発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、6月上旬の原油輸入平均CIF価格は、5月下旬比2,303円上げの30,309円/kl。ドル建てでは43.94ドルで前旬比2.93ドル高。為替レートは1ドル/109.66円。

主要元売会社の7月第1週に適用するガソリンと中間留分の卸価格は、全社とも据え置きだった。原油は若干の値上がり、為替は円高で、原油コストは小幅な値下がりだった。

そのような中で、6月27日時点の小売価格は、ガソリンが横ばいの124.0円、軽油は0.1円値下がりの103.6円、灯油は横ばいの64.2円だった。ガソリンは16週振りに値上がりが止まり、軽油は16週振りの値下がり、灯油は5週振りに値上がりが止まった。この週の原油コストは値下がり、元売りの卸価格は引き下げと据え置きに割れた。

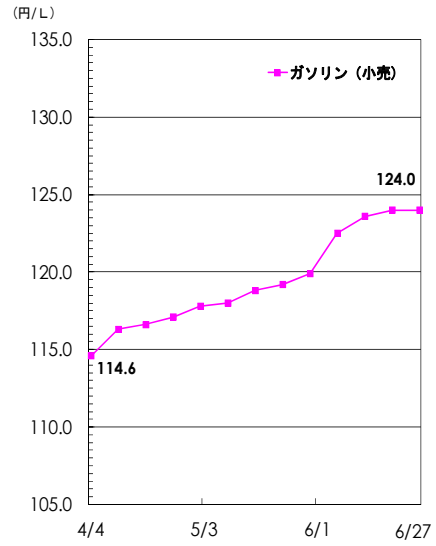
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/19 ~ 6/25	3,375 ▲121	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	79.4 ▲2.8	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/25	15,004 ▼-720	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/27	45.19 ▼-0.71	▼-15.8
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/27	46.33 ▼-3.04	▼-12.0
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	43.94 ▲2.93	▼-20.16
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	30,309 ▲2,303	▼-19,266
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.66 ▼-1.10	▲13.29
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/27	103.18 ▲2.51	▲20.78



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/19 ~ 6/25	907 ▼ -63	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	966 ▲ 29	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -2	▼ -	
	在庫	6/25	1,833 ▼ -59	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/21 ~ 6/27	43.7 ▼ -0.8	▼ -20.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/21 ~ 6/27	43.7 ▼ -0.4	▼ -19.9
		(TOCOM/中部)	6/27	42.0 ▼ -1.5	▼ -20.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/27	124.0 ➡ 0.0	▼ -21.1	

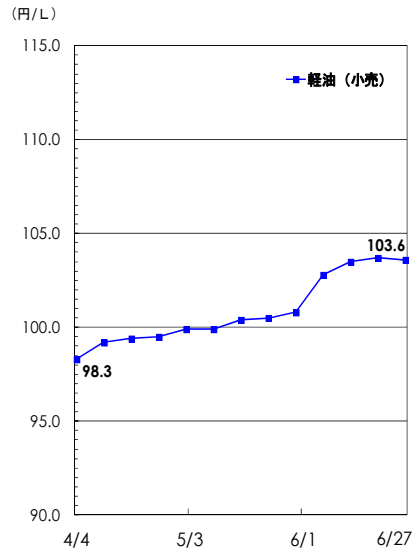
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

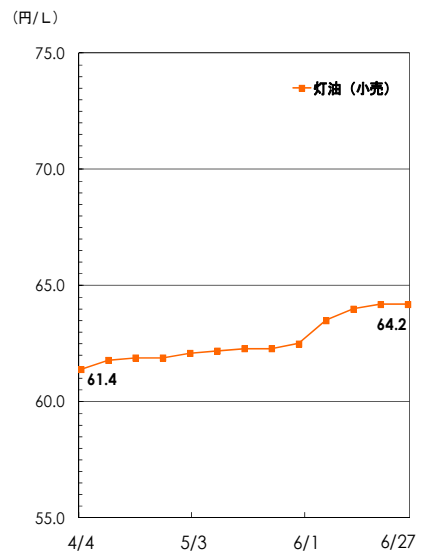
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/19 ~ 6/25	796 ▲ 106	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	629 ▼ -19	▼ -	
	輸出	"	175 ▲ 81	▼ -	
	在庫	6/25	1,438 ▼ -8	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/21 ~ 6/27	41.5 ▼ -0.2	▼ -17.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/21 ~ 6/27	40.2 ▲ 0.2	▼ -18.8
		(TOCOM/中部)	6/27	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/27	103.6 ▼ -0.1	▼ -19.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/19 ~ 6/25	157 ▲ 28	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	67 ▼ -5	▼ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	6/25	1,822 ▲ 90	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/21 ~ 6/27	40.5 ▼ -0.3	▼ -18.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/21 ~ 6/27	39.9 ▲ 0.1	▼ -19.4
		(TOCOM/中部)	6/27	39.1 ▲ 0.1	▼ -19.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/27	64.2 ➡ 0.0	▼ -21.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

29日のNYMEX市場のWTI原油は、米国の原油在庫の減少が市場予想を大きく上回ったことから、大幅続伸した。

EIAの週間石油統計は、原油在庫が前週比410万バレル減と市場予想(240万バレル減)を上回った。英国のEU離脱を背景とする投資家のリスク回避姿勢の後退、対ユーロでのドルの弱含み、さらに、ノルウェー油田労働者のスト懸念も、買いの材料となった。

8月限の終値は、前日比2.03ドル高の1バレル49.88ドル、9月限の終値は、前日比1.99ドル高の1バレル50.58ドルだった。

EIAによると、6月27日時点のガソリンの小売価格は全米平均で前週比2.4セント値下がりの1ガロン2.329ドル(63.4円/ℓ)となった。ディーゼルは前週横ばいの2.426ドル(66.0円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、6月19日~25日に休止したトッパー能力は、25.2万バレル/日と先週から16.4万バレル/日の減少。(全処理能力は381.7万バレル/日)。

原油処理量は337.5万kl、前週に比べ12.1万kl増加。前年に対しては33.7万klの増加。トッパー稼働率は79.4%と前週に対して2.8ポイントの増加、前年に対しては9.7ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/6.5%減、ジェット/19.4%増、灯油/21.9%増、軽油/15.4%増、A重油/4.1%減、C重油/29.4%増。今週のC重油の輸入は2.4万kl(前週比3.9万kl減)。軽油の輸出は17.5万kl(前週比8.1万kl増)。

出荷(販売量)は、前週比では灯油、軽油が減少し、その他の油種で増加した。前年比ではジェットのみが増加し、その他の油種で減少した。原油価格が値下がりとなり、約3カ月振りに小売価格の値上がりがあったが、ガソリンの出荷は96.6万kl(対前週3.2%増)と2週連続で前週比で増加、2週振りに前年比で減少となり、4週連続で100万kl台を下回った。

ジェット12.2万kl(対前週699.2%増)、灯油6.7万kl(対前週6.5%減)、軽油62.9万kl(対前週3.0%減)、A重油19.1万kl(対前週15.6%増)、C重油32.8万kl(対前週8.0%増)。

(単位:千KL)

	今週 (6/19 ~ 6/25)	前週 (6/12 ~ 6/18)	前週比	
ガソリン	966	937	▲ 29	(3%)
ジェット燃料	122	15	▲ 107	(713%)
灯油	67	72	▼ -5	(-7%)
軽油	629	648	▼ -19	(-3%)
A重油	191	165	▲ 26	(16%)
C重油	328	304	▲ 24	(8%)
合計	2,303	2,141	▲ 162	(8%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月25日時点の在庫は灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリン、ジェット、灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは183.3万kl、前週差5.9万kl減。前年に対しては8.7万kl多い。

灯油は182.2万kl、前週差9.0万kl増。前年に対しては28.0万kl多い。

軽油は143.8万kl、前週差0.8万kl減。前年に対しては14.3万kl少ない。

A重油は80.2万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては0.2万kl少ない。

C重油は196.2万kl、前週差4.1万kl減。前年に対しては7.5万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (6/25)	前週 (6/18)	前週比	
ガソリン	1,833	1,892	▼ -59	(-3%)
ジェット燃料	1,015	1,068	▼ -53	(-5%)
灯油	1,822	1,732	▲ 90	(5%)
軽油	1,438	1,446	▼ -8	(-1%)
A重油	802	822	▼ -20	(-2%)
C重油	1,962	2,003	▼ -41	(-2%)
合計	8,872	8,963	▼ -91	(-1.0%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月21日から6月27日までの原油コストは、原油価格は小幅に値上がり、為替レートは円高で、小幅な値下がりと思われる。

陸上スポット価格は、ガソリン97円台、軽油41円台、灯油40円台で小幅な値動きに終始した。海上スポット価格は、ガソリン97～104円台、軽油41～43円台、灯油37～41円台、先物価格はガソリン96～98円台、軽油39～41円台、灯油38～41円台で前半は堅調だったが、後半は原油市況の急速な軟化につられて急速に軟化した。元売の卸価格は据え置きだった。

EMGマーケティングは30日、1日以降出荷分の陸上外販スポット価格について、先週通告した一律2.0円値上げを、一律1.0円に修正の上実施する旨を通知した。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上物から値を崩した。週間のガソリン販売量は、4週連続で100万klを若干下回った。

7月第1週(6月30日～7月6日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月21日～6月27日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.8円、灯油は0.3円、軽油は0.2円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが3.7円、灯油は0.1円、軽油は1.6円の値下がり、先物価格は、ガソリンが0.4円の値下がり、灯油が0.1円、軽油が0.2円の値上がりだった。スポット製品価格は海上物を中心に軟調に転じた。

7月第1週の大手元売の卸価格は、全社横ばいであった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
[陸上ローリー4地区平均]		今週 (6/21～6/27)	前週 (6/14～6/20)	前週比
スポット価格	レギュラー	43.7	44.5	▼ -0.8
	灯油	40.5	40.8	▼ -0.3
	軽油	41.5	41.7	▼ -0.2

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
[期近物/終値][平均]		今週 (6/21～6/27)	前週 (6/14～6/20)	前週比
先物価格	レギュラー	43.7	44.1	▼ -0.4
	灯油	39.9	39.8	▲ 0.1
	軽油	40.2	40.0	▲ 0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/21～6/27実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -0.8	▼ -0.4	▼ -0.6	
灯油	▼ -0.3	▲ 0.1	▼ -0.1	
軽油	▼ -0.2	▲ 0.2	➡ 0.0	
A重油	▼ -0.3			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月27日時点におけるSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの124.0円、軽油は0.1円値下がりの103.6円、灯油は横ばいの64.2円だった。ガソリンは16週振りに値上がり止まり、軽油は16週振りの値下がり、灯油は5週振りに値上がり止まった。

都道府県別の動向として、ガソリンの値上がりは23府県、横ばいは3県、値下がり21都道府県だった。都道府県別のガソリンの全国最安値は、秋田県(前週比0.3円安)の119.6円で、岡山県(同0.9円安)が119.8円で続いている。最高値は沖縄県(同1.8円高)の134.7円だった。都道府県別で最も値

上がりしたのは兵庫県(同1.4円高)で123.6円、最も値下がりしたのは神奈川県(同1.1円安)の121.6円だった。

原油コストは値下がり、卸価格は引き下げと据え置きに分かれたが、16週振りに小売価格の値上がり止まった。原油価格の上昇を円高が相殺する形で、原油コストはやや値下がりしており、次週の小売価格は、小幅な値下がり予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)			
		今週 (6/27)	前週 (6/20)	前週比	直近高値
小売価格	レギュラー	124.0	124.0	➡ 0.0	08/8/4 185.1
	灯油	64.2	64.2	➡ 0.0	08/8/11 132.1
	軽油	103.6	103.7	▼ -0.1	08/8/4 167.4

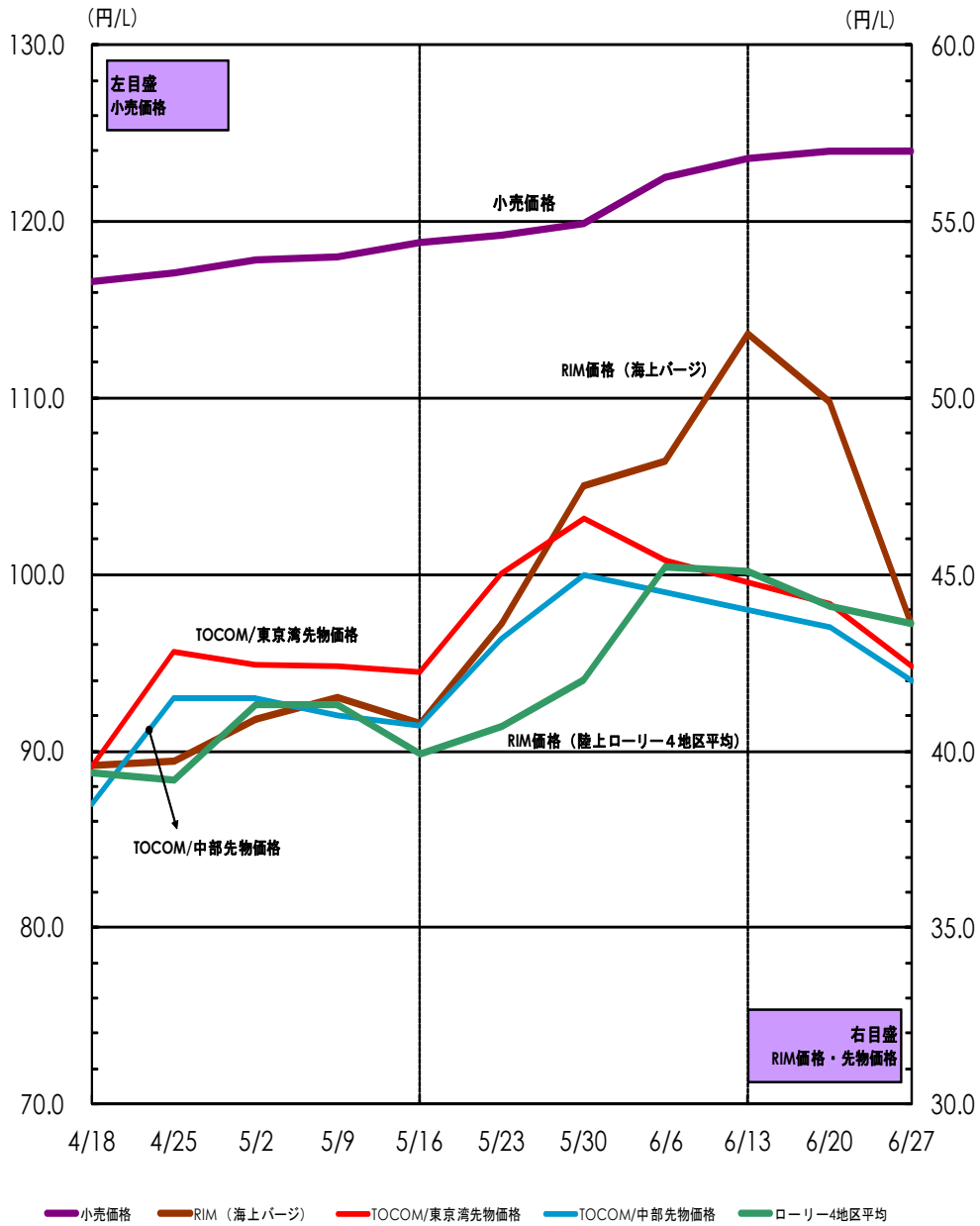
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2016/4/18 ~ 2016/6/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2016第14号)の公表は、7/8(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成27年9月末現在)は、12月16日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。